

令和8年8月7日

石巻市議会議長 奥 山 浩 幸 殿

会 派 名 石巻市民クラブ

代表者氏名 会長 大 森 秀 一

調 査 報 告 書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調 査 者 氏 名 大森秀一、丹野清
- 2 調 査 期 間 令和8年7月26日から
令和8年7月29日まで 4日間
- 3 調査地及び調査内容
 - (1) 和歌山県太地町
 - ・海の記憶を地域ブランドに変えるまちづくりについて
 - (2) 和歌山県田辺市
 - ・たなべ未来創造塾による地域課題解決や人材育成について
 - (3) 大阪府和泉市
 - ・こどもまんなかセンターを中心とした子ども・子育て支援について

4 目 的

- (1) 和歌山県太地町
 - ・海の記憶を地域ブランドに変えるまちづくりについて
 - 「くじらの文化・研究・教育・観光」を核とした長期的なまちづくりについて、太地町では、捕鯨の歴史と文化を町の中心的な「町らしさ」として捉え、くじらの博物館、国際捕鯨施設、道の駅、史跡、街並み等を相互に結びながら、「くじらと海のエコミュージアム太地」の実現を目指している。
 - くじらを観光資源として消費するだけでなく、文化の継承、鯨類の飼育、研究、学校教育、国内外との交流、産業振興、住民の誇り形成までを一つの長期的なまちづくりとして

捉える考え方を調査するとともに、太地町立くじらの博物館とおしかホエールランドの姉妹館提携を、共同研究、教育旅行等へ発展させる可能性を検討し、本市、特に牡鹿地域における地域づくりの参考とする。

（２）和歌山県田辺市

- ・たなべ未来創造塾による地域課題解決や人材育成について

和歌山県田辺市では、人口減少や若者流失、空き家、担い手不足、生活サービスの維持などの地域課題に対し、行政が補助金や単発事業で対応するだけでなく、地域事業者が自らの本業や強みを生かして課題解決型のビジネスを生み出す人材育成について取り組んでいる。

「たなべ未来創造塾」は、行政・大学・金融機関等が連携し、受講者の発掘から事業構想、発表、実行までを伴走する仕組みである。若者定住を単に「地域に残ってもらう」施策として捉えるのではなく一度地域外へ出た若者が将来戻る理由や、地域との関わり続ける接点を作る「若者還流」の視点も含め、その運営手法と成果、行政職員の役割を調査し、本市における人材育成・産業振興・若者施策の参考とする。

（３）大阪府和泉市

- ・こどもまんなかセンターを中心とした子ども・子育て支援について

和泉市では、令和６年４月に母子保健を担う「子育て世代包括支援センター」と児童福祉を担う「子ども家庭総合支援拠点」一本化した「和泉市こどもまんなかセンター」を設置し、妊産婦、子ども、子育て家庭に対する切れ目のない相談・支援を進めている。

単に相談窓口の名称を一本化するのではなく、母子保健、児童福祉、教育、地域の支援機関等がどのように情報と役割をつなぎ、支援が必要な家庭を早期に把握し、継続的な支援に結び付けるのかを調査する。併せて、「和泉市こどもまんなか計画」における子どもの権利・意見の尊重、若者期までを含めた支援、地域の居場所や相談資源との連携などを把握し、本市におけるこども・若者支援体制の充実に資することを目的とする。

５ 調 査 概 要

（１）和歌山県太地町

- ・海の記憶を地域ブランドに変えるまちづくりについて

〔太地町の取組の概要〕

太地町は、捕鯨の歴史と文化を町の中心的な構想と位置付け、くじらの博物館、森浦湾、国際捕鯨施設、道の駅、史跡、街並み等を相互に結びながら、「くじらと海のエコミュージアム太地」という将来像の下、まちづくりを進めている。

くじらは単なる観光素材として扱うのではなく、町の形成、仕事、食文化、祭り、信仰、人々の記憶に関わる存在として捉えている。中でも個別施設の整備を目的化せず、町全体

の長期的な構想の中、来訪者に町を「点」ではなく、「面」で体験してもらうことに加え、住民自身が地域の価値を再認識し、次世代へ語り継ぐことも重視し、次の事業を積極的に取り組んでいる。

○30年のまちづくりミュージアム

…長い時間をかけて、長期の将来像を先に置く
各年度の事業を積み重ねる

○くじらの博物館と研究機能

…～命を学ぶ、社会教育施設として 触れて、感じて、見て、学ぶ～
観光施設であり、捕鯨に関する研究専門機関
鯨類のストランディング（座礁漂着）調査
寄贈資料の受入
博物館、水族館等との連携活動
（おしかホエルランドとの姉妹館提携）
国際鯨類施設に一般社団法人日本鯨類研究所の太地事務所

○森浦湾クジラの海計画

…湾の自然を生かした、鯨類の半自然環境下で飼育
湾内の環境整備、遊歩道やデッキ等、ライトアップ

○教育・次世代継承と観光・産業への接続

…地域学習プログラム「くじら学習」
小学1・2年生～見つける喜び、3・4年生～みる喜び、5・6年生～知る喜び
※単発ではなく、継続できる通年プログラムの開発
磯のいきもの観察会
参加型創作イベント「くじらまみれ」
くじらに出会える海水浴場
海岸清掃活動「めがね岩お掃除大作戦」
国内外の大学及び研究機関、研究者との連携
スタッフの講師派遣（講演やワークショップ）
学芸員実習、飼育実習、インターシップの受入
※地域文化を次世代へ引き継ぐ上で、子供たちを単なる見学者とせず、地域について調べ、発表する、案内することの重要性を体現してもらうことが重要と考えている。

○おしかホエルランドとの姉妹館提携

…2025年11月1日「全国鯨フォーラム2025 石巻」を契機に締結
両地域が持つ捕鯨文化と未来につなぐ重要な出発点となる。

（２）和歌山県田辺市

- ・たなべ未来創造塾による地域課題解決や人材育成について

〔田辺市の概要〕

田辺市は、人口減少、少子高齢化、若者転出、公共交通や生活インフラの維持、社会保障費の増大などを課題としている。一方で、熊野古道と「みなべ・田辺の梅システム」という世界的な価値を持つ地域資源はじめ、熊野本宮大社、龍神温泉、湯の峰温泉、梅・柑橘・紀州備長炭など多様な地域資源を有している。

視察では、こうした資源を外部からの集客や一過性のイベントにとどめず、地域内での仕事と所得を生み、人口が減少しても暮らし続けられることが重要との説明を受けた。

〔たなべ未来創造塾の概要〕

○たなべ未来創造塾の背景

平成26年に世界遺産登録10周年、平成27年合併10周年という節目にあたり、平成26年4月より「たなべ営業室」を設置し、市そのものの価値を高める「価値創造プロジェクト」を推進する。

○人材育成を「戦略プラン」の柱に

戦略プラン6つのうちのひとつとして「地域を担う人材の育成」

＜たなべ未来創造塾＞ ①地域ビジネスを担う人材の育成

②地域を守り育てる人材育成

③次世代を担う人材の育成

○地域みんなで支える「産学官金」が一体となった組織体制

- ・日本政策金融公庫田辺支店との経営者育成に係る連携協定

金：たなべ未来創造塾を通じ無担保・無保証で700万円の融資

その後、塾生には無利子無担保で1,000万円の融資

- ・地方創生人材育成の連携に関する覚書締結

平成28年1月 富山大学地域連携推進機構

令和3年8月 熊本大学熊本創生推進機構

○段階的に学び、自ら考える

ビジネスプラン構築に向けた実践的なプログラム

修了式が終わりではなく、終了後もセミナー等を開催

○塾修了生のその後

- ・僕たちの畑は僕たちが守る 農人と森の番人プロジェクト
- ・バックヤードハウス「THE CUE」空き家を複合施設に
- ・カフェ、瓶詰食品工房、パン屋を開業（東京から移住）
- ・人との交わりでできた日本酒「交」

- ・あかね材（虫食い材）に光を（ありのままの素材を良さに変える）
- ・子供たちが憧れる農家を目指して などなど事例多数

○塾生のスローガン

自分たちが住む地域は、自分たちで変えよう

（３）大阪府和泉市

- ・こどもまんなかセンターを中心とした子ども・子育て支援について

[和泉市の概要]

和泉市は、大阪市内からも近く、大型商業施設のある都会でありながら、昔ながらの里山風景も残っているまちである。本年４月１日時点で人口180,955人、うち児童人27,948人、令和７年出生数は1,075人であり、都会に近い立地ながら、自然がたくさん残された「とかいいなか（都会×田舎）」であり子育てしやすいまちである。

昨年４月に開校した和泉市立榎尾学園は市内２校目となる施設一体型義務教育学校、１クラス20人程度の少人数学級できめ細やかな学習、指導を行うなど、妊娠中から出産、子育て、18歳までの子ども、子育て支援に力点を置く、若者世代から好評を得ているまちでもある。

[和泉市こどもまんなかセンターの概要]

《母子保健と児童福祉の一体的な切れ目のない支援》

○組織体制（令和６年４月設置）

こども・健康部の部長がセンター長

- ・子育て支援室こども政策担当
- ・健康づくり推進室健康増進担当

母子保健と児童福祉が連携を深め、一体的に妊産婦、子育て家庭、子どもに寄り添った支援を行う

○取組内容

①合同ケース会議…総括支援員、児童福祉ＳＶ、母子保健ＳＶ

毎月１回、令和６年 53 件、令和７年 61 件

②サポートプラン

サービスを利用する場合は必ず作成し手交

令和６年度 ８件 妊娠届時交付応援プラン 1,179件

令和７年度 33件 妊娠届時交付応援プラン 1,166件

③妊娠期から切れ目のない支援(妊娠から就学前)

妊娠・・・出産・・・４か月・・・10か月・・・１歳・・・・・・６歳

就学前・・・小学校・・・中学校・・・高校・・・・・・１８歳

④家庭支援事業＝子ども（要保護児童等）自身への支援

児童育成支援拠点事業……NPO法人に委託 週5日

子育て世帯訪問支援事業…令和8年度開始予定（委託予定）

親子関係形成支援事業……令和8年度開始予定（委託予定）

子育て短期入所事業の拡大

⑤地域子育て相談機関

令和8年度から実施、公立保育園1か所

こどもまんなか計画：令和11年度に10か所目標（中学校区に1か所）

○メリットと課題

【メリット】

- ・母子保健と児童福祉の連携強化

【課題】

- ・地域資源の開拓、サービスの充実
- ・サポートプランの活用、サポートプラン作成後の継続的なマネジメント
- ・ケースワーク→アセスメント力の向上
- ・母子保健から児童福祉への支援のつなぎ
- ・普及啓発を行い、子育てしやすい環境整備、地域づくり

○こども・子育て支援に関するDX連携（IT活用）

児童福祉

…子どもの予防的支援事業（こども家庭庁 こどものデータ連携実証事業R5～7年）

母子保健

…各種教室の電子申し込み、オンラインを併用した教室

妊婦のための支援給付金の電子申請、子育て・健康応援アプリ「いずまる」

○子育て家庭などの対象者に対するアウトリーチ支援

産前産後サポート事業…いずまるサポート訪問

養育支援訪問事業

こどもの予防的支援事業

子育て世帯訪問支援事業

○今後の子ども支援、子育て支援制度の充実に向けた取組みについて

妊娠期からの支援強化・地域の子ども支援・子育て支援機能の強化

保育、教育の質の向上・デジタル化の推進・情報発信の強化

○和泉市こどもまんなか計画

基本理念：すべての子どもの可能性を育み、その可能性を十分に発揮できるこどもま

んなか和泉市

～安心して出産、子育てできるまち 親子の健やかな育ちを見守り

地域全体で子供の育ちを支援していく和泉市を目指して～

6 所 感

(1) 和歌山県太地町

- ・海の記憶を地域ブランドに変えるまちづくりについて

はじめに、捕鯨とのゆかりで、三軒一高（さんげんたかし）太地町長、漁野洋伸太地町副町長、花村計太地町議会議長はじめ、多くの太地町関係者の心温まるおもてなしの中、有意義な視察研修となった。

太地町における捕鯨は、慶長11年和田忠兵衛頼元らが捕鯨をはじめた長い歴史がある。現在も和田忠兵衛頼元の子孫である和田正希氏（太地町役場総務課副主幹、町長秘書担当）が視察に同行・説明をしていただくなど、古から現在までの太地町におけるくじらへの思いが伝わる視察であった。

本市は、近代捕鯨（ノルウェー方式：縄のついた砲弾でクジラを仕留める）になり、その母船の基地として旧牡鹿町鮎川地区が栄えたという歴史から、捕鯨については後発に当たる。鮎川地区においての捕鯨、鯨文化も衰退の一途にあり、今年に入って捕鯨会社が廃業し、ますます鯨の伝統・文化が希薄している。

そのような中、太地町を訪問し、前記の視察内容を調査した結果、「なんとかしなければ」という思いが込み上げてきた。特に、太地町の「くじらの博物館」を視察した際、単なる鯨の部位の展示や捕鯨船の係留など、目で見ると、目で感じ取る施設との思いが一挙に瓦解された。それは、博物館というより屋外水族館というイメージで、多くの来場者で賑わっている様子を目の当たりにした。また、イルカショーにて、入江にはイルカや鯨が飼育されており、栈橋を渡って、餌をやり、直接イルカに触れることができ、飼育されている天然の生簀で貸しボートを漕いでいるとイルカが餌を求め寄って来る光景は、「目からうろこ」の心境でした。これがくじらと歩む太地町の真骨頂だと感じた。

調査の中で、反捕鯨団体からドローンなどを使って地元への抗議活動を警察、自治体、漁業者等が連携して対応した経験談を聞いて、太地町におけるくじらに対する思いに感銘を受けた。





(2) 和歌山県田辺市

- ・ たなべ未来創造塾による地域課題解決や人材育成について

説明をいただいた、田辺市商工振興課長・たなべ営業室参事の鍋屋安則氏は、熊本大学客員教授を兼務しており、説明がわかりやすく、説明に聞き手が引き込まれ、市役所職員には思えないエネルギー感で好感を待たれる人物であった。彼は、地域の公民館勤務などで地域課題の多さを感じ取られ、現職に転勤後は、水を得た魚のように充実した職務をこなしているとのこと。行政の仕事は、瓶に詰めた様々な課題の隙間を水や砂のように埋めて瓶の中を落ち着かせることであるとの説明に田辺市の姿勢を垣間見るような気がした。

また、行政のエンジンは、職員を含め住民の「人財育成」がカギであるという説明も確かな裏打ちから表現されたもので説得力に満ちていた。地域課題の解決とビジネスとする両立論にも田辺市の先見性を感じ取ることができた。



(3) 大阪府和泉市

・こどもまんなかセンターを中心とした子ども・子育て支援について

視察調査の会場となった「和泉市こどもまんなかセンター」は、和泉市シルバー人材センターの建物内にあり、少し戸惑いを感じたが、説明の随所に、こどもまんなか計画の事業推進に同センターの力を活用していることから納得ができた。また、同センターは児童館を併用していることもあり、指定管理を受託しているシルバー人材センター特有の人生経験が豊富なスタッフによる運営に「ほっこり感」が漂っている。

市役所本庁舎とこどもまんなかセンターは分離してそれぞれ執務されているため、子どもに関する行政の縦割りの弊害があるとの先入観は、ITによる情報の共有化とこどもまんなかセンターのセンター長は和泉市こども・健康部長が兼務しており、子どもに関する組織的な取組の強化に納得することができた。各種事業において橋渡しをする『包括支援員』（子育て支援室と健康づくり推進室を兼務する1人の保健師）の存在が大きな力となっていることにも感銘した。

また、住宅支援制度と子育て支援制度を組み合わせた「和泉市のススメパンフレット」において、都会（大阪市内）からの移住者の受入れは、地の利を生かした有効な施策と感じた。



7 調査による本市への政策提言等について

(1) 和歌山県太地町

- ・海の記憶を地域ブランドに変えるまちづくりについて

「山あり・川あり・海あり」と自然に恵まれ本市ですが、その自然の恵みの恩恵により、産業経済が発展してきた。それが故に、本市の産業振興、特に漁業・水産業において、悩ましい問題があるのではないかと。 「有るものを活かされず、無いものを求められず」、総花的な行政運営にはなっていないか疑問が残る。

太地町のように捕鯨1本に傾注することが、まちづくりに大いに役立つと感じる。 牡鹿地区にある「おしかホエールランド」は、来訪者向けの観光振興には役立っているものの、同館を活用した牡鹿地区の振興・活性化には繋がっていないような気がする。

まずは、市内の小学校の遠足、校外学習で同館を訪問するよう遠足等のコース化を企画することを提言する。市内の子どもたちが牡鹿の鯨文化を知ることは、今後の牡鹿地区の地域振興に役立つと思います。また、開設者の本市も同館をどのような企画・運営をすれば入場者が増えるか、あるいは同館の設置目的を再認識の上、今後の在り方を検討し、同館を大いに活用した牡鹿地区のまちづくりを行うことを提言する。

(2) 和歌山県田辺市

- ・たなべ未来創造塾による地域課題解決や人材育成について

今回の視察調査で「まちづくりは、人づくりから」という認識をあらためて感じた。近年、鮎川の捕鯨会社の閉鎖、旧市内のつくり酒屋廃業など、本市に地域おこしのため様々な取り組みを行い、地域振興に努めているところが辞め、ぽつりぽつりとまちの灯りが消え、一抹の寂しさを感じる。

これらの社会不安を打開する意味でも、若い人材の発掘、活用が急務である。そのためにも、各地域で行っている「まちづくり会議」の活性化を図る必要がある。各「まちづくり会議」に担当職員を配置し、職員と地域住民が一体となってまちづくりを行うことを再認識して、商工会議所、農協、漁協、経済界、地域住民が一体となる、人口減少はやむを得ないが、ずっと住み続けたい、住んでよかった「いしのまき」を目指した政策の着実な推進体制の構築を提言する。

(3) 大阪府和泉市

- ・こどもまんなかセンターを中心とした子ども・子育て支援について

本市の庁舎は、旧デパートを活用したフロアが執務室になっており、子どもに関する来庁者が各階に移動しての相談対応となっているが、フロアを「こどもフロア」として、保健福祉、教育関係などをそのフロアに集約して、来庁者の利便性と子どもに関する本市の意気込みを示していただくことを提言する。

また、出生率の減少に歯止めがかからない現在、少なくなる子どもを「いしのまきの宝」として、行政の総力を挙げて取り組まれることをお願いしたい。

行政も市民も「子ども＝宝」が少しでも増え、健やかに成長し、将来の石巻を担ってい

くことためには、「こどもまんなか計画」から「こども宝物計画」となるように、もう一歩進んだ取り組みをされるよう提言する。

8 調 査 経 費 230,460円

9 添 付 書 類 別添資料のとおり